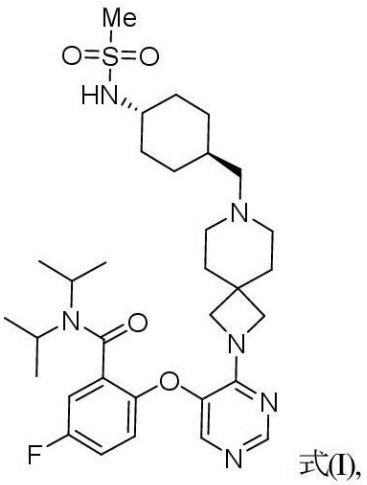
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】令和6年4月16日(2024.4.16)

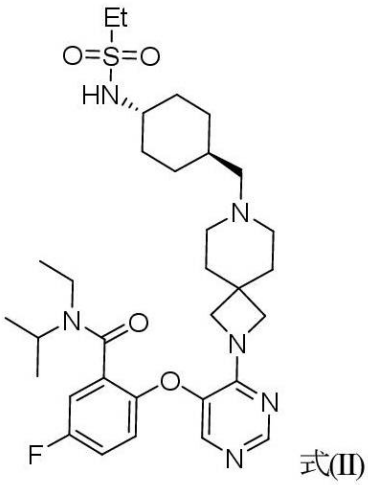
【国際公開番号】WO2021/207335
【公表番号】特表2023-522166(P2023-522166A)
【公表日】令和5年5月29日(2023.5.29)
【年通号数】公開公報(特許)2023-098
【出願番号】特願2022-561040(P2022-561040)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ 45/06(2006.01)
Ａ６１Ｐ 43/00(2006.01)
Ａ６１Ｋ 31/519(2006.01)
Ｃ０７Ｄ471/10(2006.01)
Ａ６１Ｐ 35/00(2006.01)
Ａ６１Ｋ 31/496(2006.01)
Ａ６１Ｋ 31/427(2006.01)
Ａ６１Ｋ 31/5377(2006.01)
Ａ６１Ｐ 35/02(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ 45/06
Ａ６１Ｐ 43/00 １２１
Ａ６１Ｐ 43/00 １１１
Ａ６１Ｋ 31/519
Ｃ０７Ｄ471/10 １０１
Ａ６１Ｐ 35/00
Ａ６１Ｋ 31/496
Ａ６１Ｋ 31/427
Ａ６１Ｋ 31/5377
Ａ６１Ｐ 35/02

【手続補正書】
【提出日】令和6年4月4日(2024.4.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
処置を必要とする個体を処置する方法において使用するための、メニン阻害剤およびＣＹＰ３Ａ４阻害剤を含む医薬組合せ。
【請求項２】
処置を必要とする個体を処置する方法において使用するための、メニン阻害剤を含む医薬組成物およびＣＹＰ３Ａ４阻害剤を含む医薬組成物を含む医薬組合せ。
【請求項３】
メニン阻害剤が、式（Ｉ）および式（ＩＩ）：

【化１】



式(I),



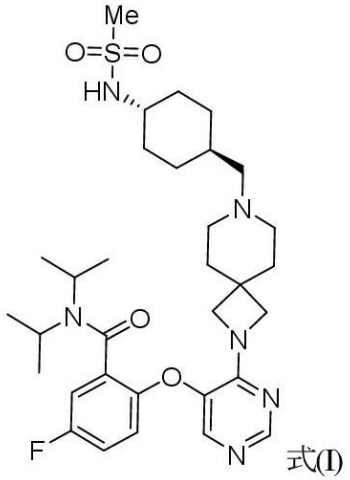
式(II)

またはその薬学的に許容される塩、溶媒和物、水和物、立体異性体、幾何異性体、もしくは互変異性体から選択される、請求項１または２に記載の医薬組合せ。

【請求項４】

前記メニン阻害剤が、式（Ｉ）：

【化２】



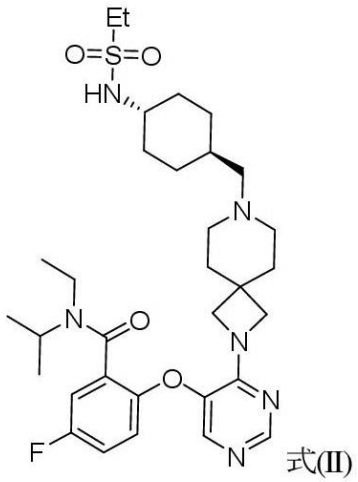
式(I)

の化合物、またはその薬学的に許容される塩、溶媒和物、水和物、立体異性体、幾何異性体、もしくは互変異性体である、請求項１～３のいずれか一項に記載の医薬組合せ。

【請求項５】

前記メニン阻害剤が、式（ＩＩ）：

【化３】



式(II)

の化合物、またはその薬学的に許容される塩、溶媒和物、水和物、立体異性体、幾何異性体、もしくは互変異性体である、請求項１～４のいずれか一項に記載の医薬組合せ。

【請求項６】

前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤が、ボセプレビル、ネファゾドン、クラリスロマイシン、ネルフィナビル、コニバプタン、ポサコナゾール、グレープフルーツ果汁、リトナビル、インジナビル、サキナビル、イトラコナゾール、テラプレビル、ケトコナゾール、テリスロマイシン、ロピナビル、ボリコナゾール、コビシスタット、ミベフラジル、およびフルコナゾールからなる群から選択される、請求項１～５のいずれか一項に記載の医薬組合せ。

【請求項７】

前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤がアゾール抗真菌薬である、請求項１～５のいずれか一項に記載の医薬組合せ。

【請求項８】

前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤がポサコナゾールである、請求項１～６のいずれか一項に記載の医薬組合せ。

【請求項９】

前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤がコビシスタットである、請求項１～６のいずれか一項に記載の医薬組合せ。

【請求項１０】

前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤がケトコナゾールである、請求項１～６のいずれか一項に記載の医薬組合せ。

【請求項１１】

前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤がリトナビルである、請求項１～６のいずれか一項に記載の医薬組合せ。

【請求項１２】

前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤がイトラコナゾールである、請求項１～６のいずれか一項に記載の医薬組合せ。

【請求項１３】

前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤がボリコナゾールである、請求項１～６のいずれか一項に記載の医薬組合せ。

【請求項１４】

前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤がフルコナゾールである、請求項１～６のいずれか一項に記載の医薬組合せ。

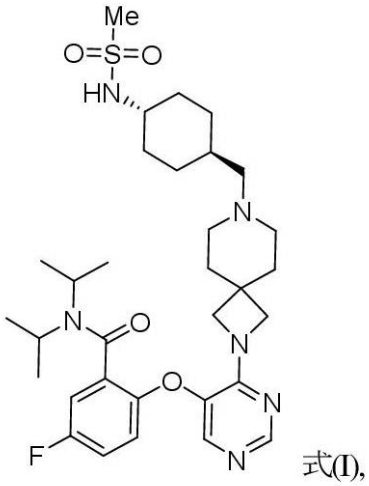
【請求項１５】
前記メニン阻害剤および前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤が組合せ剤形である、請求項１～１４のいずれか一項に記載の医薬組合せ。
【請求項１６】
前記メニン阻害剤および前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤が別々の剤形である、請求項１～１４のいずれか一項に記載の医薬組合せ。
【請求項１７】
前記方法において、前記メニン阻害剤が治療有効量以下で投与される、請求項１～１６のいずれか一項に記載の医薬組合せ。
【請求項１８】
前記方法において、前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤が治療有効量で投与される、請求項１～１７のいずれか一項に記載の医薬組合せ。
【請求項１９】
前記方法において、前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤が治療有効量以下で投与される、請求項１～１７のいずれか一項に記載の医薬組合せ。
【請求項２０】
前記方法において、前記メニン阻害剤および前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤が同時発生的に投与される、請求項１～１９のいずれか一項に記載の医薬組合せ。
【請求項２１】
前記方法において、前記メニン阻害剤および前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤が、同時に、実質的に同時に、または同じ治療プロトコール内で投与される、請求項１～１９のいずれか一項に記載の医薬組合せ。
【請求項２２】
前記方法において、前記メニン阻害剤および前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤が順次投与される、請求項１～１９のいずれか一項に記載の医薬組合せ。
【請求項２３】
前記方法において、前記医薬組合せが、最初の処置期間に投与され、その後に前記メニン阻害剤の連続投与が続く、請求項１～２２のいずれか一項に記載の医薬組合せ。
【請求項２４】
前記方法において、前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤の投与が前記メニン阻害剤の投与の前に行われる、請求項１～１４、１６、１９、および２１～２３のいずれか一項に記載の医薬組合せ。
【請求項２５】
前記メニン阻害剤の１日投与量が、約１０ｍｇ～約５００ｍｇである、請求項１～２４のいずれか一項に記載の医薬組合せ。
【請求項２６】
前記メニン阻害剤の１日投与量が、約２２６ｍｇである、請求項１～２４のいずれか一項に記載の医薬組合せ。
【請求項２７】
前記メニン阻害剤の１日投与量が、約４５２ｍｇである、請求項１～２４のいずれか一項に記載の医薬組合せ。
【請求項２８】
メニン阻害剤と組み合わせて投与される前記ＣＹＰ３Ａ４阻害剤の１日用量が、５０ｍｇ／日から１０００ｍｇ／日までであり、１０００ｍｇ／日を含む、請求項１～２７のいずれか一項に記載の医薬組合せ。
【請求項２９】
投与される前記メニン阻害剤の量が、約１３０ｍｇ／日、約１９０ｍｇ／日、約２２０ｍｇ／日、約３２０ｍｇ／日、または約５４０ｍｇ／日である、請求項１～２４および２８のいずれか一項に記載の医薬組合せ。
【請求項３０】

メニン阻害剤およびＣＹＰ３Ａ４阻害剤の組合せを含む、個体においてがんを処置するためのキット。

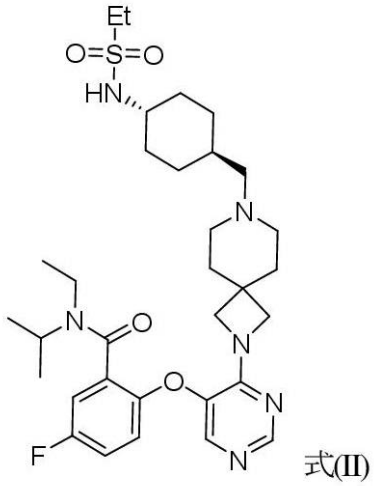
【請求項３１】

前記メニン阻害剤が、式（Ｉ）および式（ＩＩ）：

【化４】



式(I),



式(II)

またはその薬学的に許容される塩、立体異性体、幾何異性体、もしくは互変異性体から選択される、請求項３０に記載のキット。

【請求項３２】

前記キットの使用方法についての取扱説明書をさらに含む、請求項３０または３１に記載のキット。

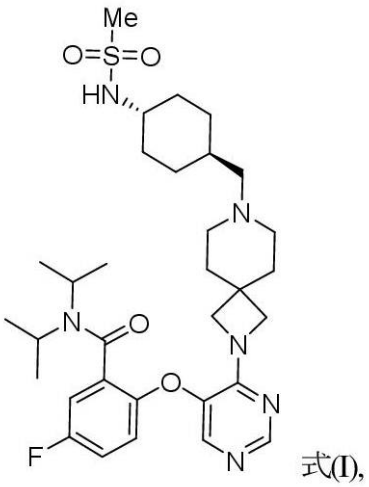
【請求項３３】

メニン阻害剤およびＣＹＰ３Ａ阻害剤を含む組成物であって、前記メニン阻害剤および前記ＣＹＰ３Ａ阻害剤が人体中で（例えば、人体中でのみ）互いに接触する、前記組成物。

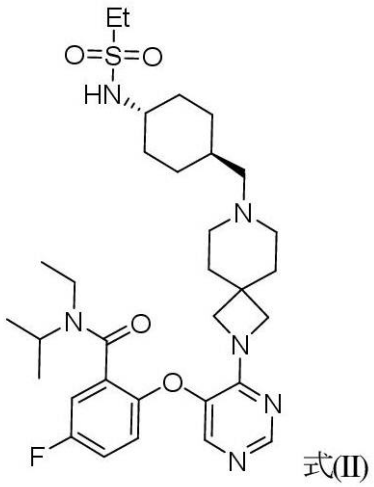
【請求項３４】

前記メニン阻害剤が、式（Ｉ）および式（ＩＩ）：

【化５】



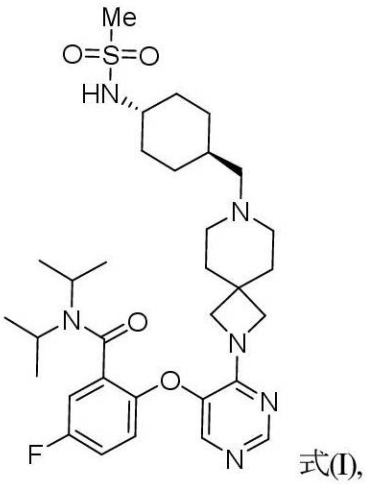
式(I),



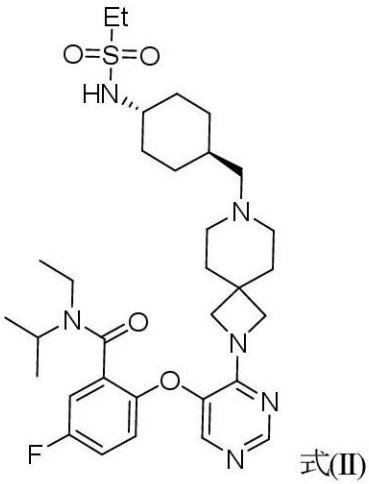
式(II)

またはその薬学的に許容される塩、立体異性体、幾何異性体、もしくは互変異性体から選

択される、請求項３３に記載の組成物。
【請求項３５】
メニン阻害剤およびＣＹＰ３Ａ阻害剤を適所において互いに接触させる、組成物の調製方法。
【請求項３６】
前記メニン阻害剤が、式（Ｉ）および式（ＩＩ）：
【化６】

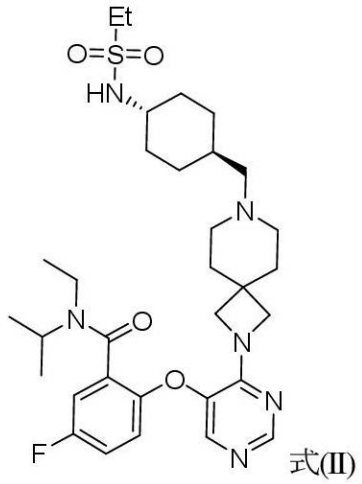

式(I),

,


式(II)

またはその薬学的に許容される塩、立体異性体、幾何異性体、もしくは互変異性体から選択される、請求項３５に記載の方法。
【請求項３７】
がんを処置する医薬の製造に使用される、メニン阻害剤およびＣＹＰ３Ａ４阻害剤の組合せ。
【請求項３８】
ＣＹＰ３Ａ阻害剤が強いＣＹＰ３Ａ阻害剤である、請求項１～１３および１５～２９のいずれか一項に記載の医薬組合せ。
【請求項３９】
患者においてがんを処置する方法において使用するための医薬組合せであって、
ａ）ポサコナゾールを含む医薬組成物、および、
ｂ）式（ＩＩ）のメニン阻害剤：

【化７】



式(II)

またはその薬学的に許容される塩を含む医薬組成物、
を含む、前記医薬組成物。

【請求項４０】

前記メニン阻害剤がフマル酸塩である、請求項１～２９および３９のいずれか一項に記載の医薬組合せ。

【請求項４１】

前記メニン阻害剤がセスキフマル酸塩である、請求項１～２９、３９および４０のいずれか一項に記載の医薬組合せ。